

AI半導体株の下落とビッグテック決算の注目点

ビッグテックのAIビジネスの収益化が進展しているか否かに注目

2026年7月21日

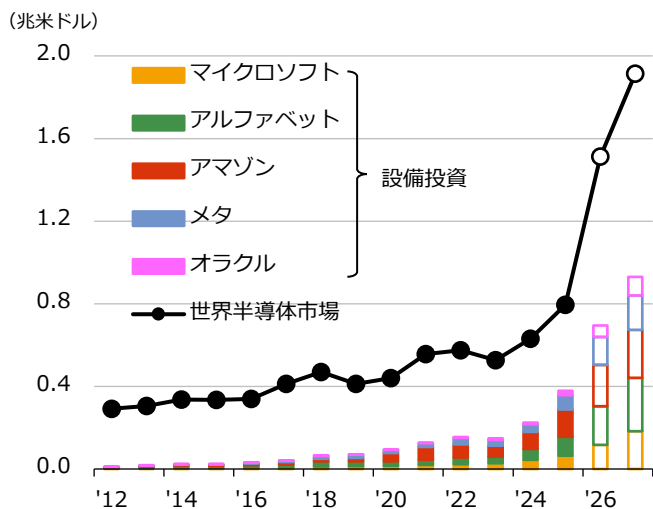
ASMLとTSMCの好決算は買いに繋がらず、SOXは一時弱気相場入り

AI半導体株が下落基調にあります。7月15日に蘭ASML、16日に台湾TSMCが予想を上回る26年4-6月期決算を発表し、通期売上高見通し等を上方修正しました。しかし市場はこれらを好感せず、17日には米中AI開発競争激化への懸念が台頭し、SOXは3日続落しました。同指数は6月22日の最高値から▲20%（20日は小反発し▲19.8%）となり、弱気相場入りとなりました。SOX下落の要因として考えられるのがAI半導体市場の成長性に対する疑念の台頭です。即ちビッグテックの巨額AI投資を前提とし、2社は業績見通しを増額したものの、仮にビッグテックのAIビジネスの収益化が進まず、AI投資拡大に持続性がなくなればAI半導体の成長も止まり、2社の野心的な業績見通しは画餅に終わる、といった見方です。

こうした見方の是非を判断する上で重要なのが、22日予定のアルファベットを始めとするビッグテック各社の4-6月期決算です。アルファベットの1-3月期決算では、AIサービスを提供するクラウド事業の増収率が大きく拡大。同社のAIビジネスは投資先行の局面から収益化の局面に入ったと市場で受け止められ、市場心理が改善した経緯がありました。当期のビッグテック決算が、売上高見通しや設備投資計画の上方修正のみならず、AIビジネスの収益化が進んでおり、先々のAI投資とAI半導体の需要拡大の持続性を担保する内容となれば、ビッグテックやAI半導体株にとってプラス材料となる可能性があり、注目されます。

(執筆：調査部 高橋卓也)

図表1 ビッグテックの設備投資と世界半導体市場

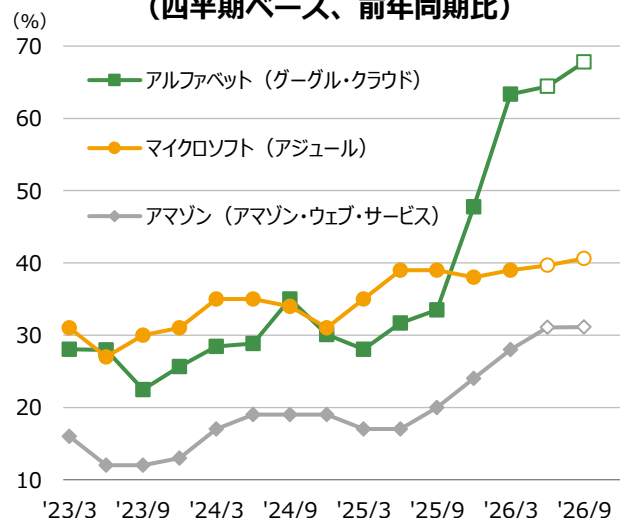


※26、27年の予想は設備投資がブルームバーグ（7月20日時点）

※世界半導体市場はWSTS（世界半導体市場統計、6月時点）

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

図表2 ビッグテックのクラウド部門増収率（四半期ベース、前年同期比）



※26年4-6月期、7-9月期の予想はブルームバーグ（7月20日時点）

※アマゾンとマイクロソフトは1年売上成長（実質ベース）

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント